

2024（令和6）年度決算について

学 校 法 人 桃 山 学 院
理 事 長 出 田 善 蔵

2024(令和6)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2025年5月27日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

〔 決 算 概 要 〕

(1)資金収支計算書

2024年度の決算では、予算に比して収入の部合計が3億3,127万円増の265億2,771万円となりました。これは主に桃山学院大学、桃山学院教育大学および桃山学院高等学校で「経常費補助金収入」が増加したことにより法人全体で「補助金収入」が1億5,132万円増加したこと、桃山学院大学の入学予定者が増加したことにより「前受金収入」が1億8,634万円増加したことが主な要因となります。

支出の部では、「教育研究経費支出」が3億529万円減少しました。これは、経費削減に努めたことに加えて、桃山学院大学の教育研究に係るシステム(SAINT)更新費用の一部が次年度以降に繰り越されたことによるものです。

このように収入増・支出減の結果、翌年度繰越支払資金は12億4,604万円増加の118億116万円となりました。

(2)活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書に記載されている資金収入および資金支出を3つの活動ごとに区分して記載した計算書です。

はじめに、学校法人の本業にあたる「教育活動による資金収支」の収支差額は17億2,717万円となりました。

次に「施設整備等活動による資金収支」については、新棟(エレノア館)建設や桃山学院大学に人間教育学部を開設するための既存施設リノベーション工事を実施したことなどにより、施設整備等活動資金収支差額は31億1,346万円の支出超過となりました。

それらの要因に財務活動や預り金の受払い等の経過的な活動を記載する「その他の活動による資金収支」を加算した結果、支払資金の増減額は13億9,930万円の減少となりました。

(3) 事業活動収支計算書

事業活動収入では、予算額に比して1億7,820万円の増加となりました。これは主に「経常費等補助金」の増加によるものです。「経常費等補助金」の増加については、桃山学院大学、桃山学院教育大学および桃山学院高等学校で「経常費補助金」が1億3,249万円増加したことが主な要因となります。

事業活動支出では、7億2,355万円の減少となりました。これは、経費削減に努めたことに加えて、桃山学院大学の教育研究に係るシステム(SAINT)更新費用の一部が次年度以降に繰越されたことにより「教育研究経費」が3億2,849万円減少したこと、予備費の未使用額が1億7,695万円あったことが主な要因になります。

このように収入増・支出減の結果、基本金組入前当年度収支差額は2億9,744万円の収入超過となり、事業活動収支差額比率は2.3%となりました。

なお、基本金組入額は、17億7,229万円となり、その主な内容は、図書や備品関係などの恒常的な取得資産の他に新棟(エレノア館)建設や桃山学院大学に人間教育学部を開設するための既存施設リノベーション工事に伴う組入があげられます。

(4) 貸借対照表

有形固定資産では、法人全体で25億8,623万円の施設・設備投資を実施したことにより、有形固定資産全体で12億4,638万円の増加となりました。特定資産では、減価償却引当特定資産を5億円繰入したことにより、前年度から5億円増の231億6,921万円を計上することとなりました。その結果、固定資産は17億4,783万円増加し、759億4,058万円となりました。

流動資産では、施設・設備投資を実施したことにより、現金預金が13億9,930万円減少し、流動資産全体では13億3,212万円減少の121億4,029万円を計上しました。その結果、資産の部合計は4億1,570万円増加し、880億8,087万円となりました。

負債の部では、固定負債における長期未払金(ファイナンスリース資産)が減少したものの、流動負債において、未払金が増加したことにより、負債合計で1億1,826万円の増加となりました。

結果、純資産額は2023年度末に比して、2億9,744万円増加の815億7,256万円となり、純資産構成比率は92.6%となりました。

以 上